

越前町の指定文化財を訪ねよう ― 番外編 ―

雨田光平記念館をたずねました

今日は、企画展覧会開催中の雨田光平記念館へやってきました。
私、はじめて来たのですけれど、レングで作ったようなおしゃれな建物ですね。入口に楽器を持った男性の像があるけれど、この人が雨田光平さんなのかな？



▲雨田光平記念館

こんにちはE子さん。残念ですけど、その人は雨田光平さんではありません。その彫刻は雨田さんが作った作品で、バイオリンリストをモデルにした「グレラー氏の像」(昭和45年制作)です。
展示室の中へどうぞ。雨田さんはこちらの人です。



▲雨田光平

そうでしたか。ところで雨田光平さんって何をしていた人だったのですか？
雨田光平さんは、本名は雨田外次郎さん。光平は作家として名前です。本名かと思ったらペンネームですか。光平の前は「禎之」。他にも福井震災後、仮住まいしていた家にちなんで「板屋山人」、福井市のおさこえ山近くにに住んでいたことから「兎山人」など、いくつかの名前を名のっていました。一番知られている名前は、やはり「光平」です。

福井市に住んでいた人なのですか？
越前町の人ではないのですね。
そうです。福井市生まれで、福井中学(現藤島高校)卒業後、東京美術学校(現東京藝術大学)へ進学して彫刻の勉強をしました。
なるほど。彫刻家なのですね。どおりでたくさん彫刻が飾ってあるはず。ところで野外に飾ってある彫刻は、本物なのですか？
本物ですよ。雨田さんの彫刻はこの他にも福井市の柴田神社の柴田勝家像、中央公園の震災祈念碑レリーフ、県内の高校などたくさん場所飾られています。



▲柴田勝家像制作中の雨田光平

もちろん県内の美術館にも作品が収蔵されています。雨田さんが学生時、はじめて文展に出品した作品は、当時の文部省が買い上げて現在も東京国立近代美術館に収蔵されています。どんな作品ですか？
現在記念館に作品の一部が残っていますが、「女の顔」という作品です。雨田さんが夏休みに帰省した際、お兄さんのお嫁さんをモデルにして作った頭部像です。



▲女の顔 (原型)

華々しく彫刻家としてデビューですね。ところが、そうはいかなかったのです。当時、作品は高い評価を受けたのですが、雨田さんは作風について悩みアメリカへ渡ってしまいます。アメリカへ行っちゃうんですか。そこで今度はハーブに出会います。いきなり音楽ですか。
いきなりでもないですよ。雨田さんは美術学校に入学すると同時に、箏曲京極流という琴の流派に入門していて音楽の素養もありました。アメリカでハーブに出会った雨田さんは本格的に勉強がしたいと、今度はフランスへ渡ります。
彫刻はどうなったのです？

当時のアルバムには、彫刻を作っている写真が残っていますし、当時ヨーロッパにいた日本人作家達がひらいた展覧会に出品の記録が残っています。
フランスでは、音楽院の教授に弟子入りしてハーブを学んだそうですが、教室では最年長の学生だったそうですよ。
それでハーブはうまくなれたのですか？
ええ。昭和5年に雨田さんは帰国するのですが、彫刻家とハーブの演奏者、両方で活動していました。もちろん、箏曲京極流演奏者としても演奏会を開いたり、人に教えたりもしていました。
すごいですね。
帰国した一年後、展覧会で発表したのがこの作品です。



▲母と子 (ブロンズ)

作り方が全然違いますね。
海外で身に着けてきたのでしょうか。作品のモデルは自分の奥さんだそうです。
ちなみに、この作品を発表した後に生まれた息子さんのために考えています。

た名前が「光平」でした。よい名前だったので、自分の作家名にしてしまったそうです。

そうですね。では「禎之」はどんな由来があったのですか？
こちらは学生時代から入門していた、箏曲京極流の師匠がつけてくれた名前でした。
はじめてきた流派の名前ですが、箏曲京極流ってどんな曲なのですか？
箏曲京極流は、奏者が演奏しながら歌う、弾き語りの琴なのです。昭和48年に国から「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」の指定を受けています。



▲箏演奏中の雨田光平

えっ国の無形文化財ですか。文化財としての名称は「京極流箏曲」で、雨田さんは保持者として認定されています。今のところ、認定保持者は雨田さん一人です。
そんな人と越前町って、どんなつながりがあるのですか？
実は雨田さんの彫刻の弟子が、織田町(現越前町織田)の越前焼窯元で、陶芸の勉強をしていたことがあるのです。雨田さんはそこへ頻繁に訪れて、地元の人たちと交流していたそうです。そこは越前焼の修行をしている人の他に、雨田さんも含めて、

色々な職業の人たちが訪れていたそうです。

この他、雨田さんは織田町の窯元や瓦工場、県窯業試験場で作品制作したりしていました。昭和39年には県窯業試験場を賛助出品に迎え、織田町や福井市の越前焼窯元6人と一緒に「七人陶芸展」を開催しています。あまり知られていないのですが、県文化財審議委員を務めていたこともあります。

文化財保護活動もされていたのですか。越前陶芸村建設時に調査に来たり、依頼を受けて仏像を修繕したりしたこともあるそうです。
彫刻家、ハーブ演奏家、箏演奏家で国の重要無形文化財保持認定者：本当に色々なことが出来た人なのですね。そうですね。交友も幅広い人でした。福井県出身の小説家の中野重治、その妹で詩人の中野鈴子や、坂井市三国町に仮住まいをしていた詩人の三好達治とも交流がありました。三好は箏を弾く雨田を題材にした詩を作っています。
記念館には、中野重治、三好達治が雨田さんにあてた手紙も残っています。すごいですね。雨田さんって毎日、忙しそうに全国を飛び回っているようなイメージです。
そうでもないですよ。確かに展覧会を開いたり芸術を学ぶ塾を開いたり、箏曲家として日本舞踊の海外公演に参加したり色々なことをされてきました。
しかし雨田さんは、昭和5年にフランスから帰国して昭和19年に戦禍を避けて帰郷するまで東京で活動しただけで、その後は昭和60年に亡くなるまでずっと故郷の福井に住んでいました。故郷を大切にしていたのです。

東京で開催される大きな展覧会に作品を出すことはなく、故郷で自分の作品を作り続けたそうです。

雨田さんが亡くなった後、ご家族の人が生前住んでいた家とアトリエを記念館にして作品公開をしようとしたのですが、生前、雨田さんが織田町によく来られていたことを思い出し、作品を寄贈していただき新しく記念館を開館しました。
今私たちがいる展示室1が常設展示で、東京美術学校の学生時代から晩年まで雨田さんが作った彫刻作品を展示しています。



▲展示室

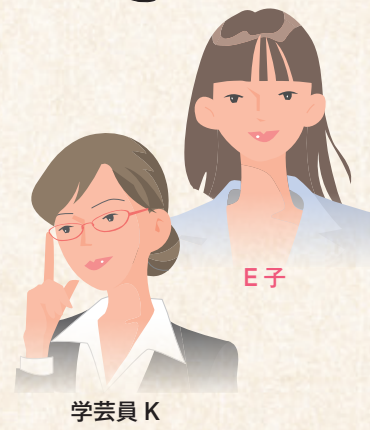
そうだったのですか。全然知らなかった。こうしてみると、一人の人が作ったとは思えないくらい色々な作品があります。奥の展示室はどうなっているのですか？
奥の展示室は、館蔵品によるテーマ展や企画展の部屋になっています。現在は企画展を開催しています。重要文化財「相木家住宅」に伝わる品々とともに、相木家住宅の歴史とそこに住んでいた人々について展示しています。
どちらもぜひ、じっくり見てください。

企画展 相木家住宅と窯業

会期 3月22日(日)まで
開館時間 午前10時～午後5時
入館は午後4時30分まで
毎週月曜日
観覧料 一般100円
20人以上の団体 2割引
中学生以下70歳以上は無料
後援 福井新聞社・NHK福井放送局・FBC・福井テレビ・丹南ケーブルテレビ
問合せ先 雨田光平記念館 ☎36-2666

重要文化財「相木家住宅」特別公開

企画展にあわせて重要文化財「相木家住宅」が特別公開されます。入場無料ですので、この機会にぜひご訪問ください。
なお「相木家住宅」は江戸時代の建造物で、個人の住宅です。訪問の際は、管理者の指示に従ってご見学ください。
公開日 3月7日(土)・15日(日)・20日(金)・春分の日・21日(土)
公開時間 午前11時～午後3時
問合せ先 相木 210416(FAXのみ)



学芸員 K